

論 文

看護婦の交替勤務形態が健康に及ぼす影響

— 日勤者の経年的体力，自覚症状，ストレス状態との比較より —

中田 恵子・朝本たみ子

(リハビリテーション加賀八幡温泉病院)

塚崎 恵子

(金沢大学医学部保健学科)

Influences on Health from three-shift working
schedule on Nurses' Health

— An Longitudinally Compared with Physical Strength, Subjective
Symptoms and Stress of Level —

Keiko Nakada, Tamiko Asamoto (Rehabilitation Kagayawata Onsen Hospital)

Keiko Tsukasaki (Department of Nursing School of Health Sciences, Kanazawa University)

要 旨

看護婦の交替勤務形態が健康に及ぼす影響について明らかにするため，交替勤務に従事する看護婦と日勤勤務のみに従事する看護婦の2群間で，2年間の体力，自覚症状，ストレス状態を比較して分析した。その結果，以下の結論を得た。

1. 看護婦全体の体力は普通であるが，運動習慣は少なかった。
2. 交替勤務に従事する看護婦の方が日勤勤務に従事する看護婦よりも最大酸素摂取量が低く，また，経年的低下も著しかった。
3. 最大酸素摂取量に関連する要因として，勤務形態と筋持久力と自覚症状が挙げられた。